



# おーい！くじらぐも

Vol.7 2022年（令和4年）1月号

発行人：社会福祉法人健翔会 くじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL：048-580-3634 FAX：048-554-8814

MAIL：kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

本年もよろしくお願いたします。くじらぐもは、“一期一会”人との出会いを大切にしていきます。



未就学児との関わりも多くなっています。育成園や保育園にも出向きます。



新年度になり、高校卒業後の進路先への対応も少しずつスタートしました。



障害のある方でも快く受け入れてくれる美容院を紹介しました。

## 『母子通園と母子分離 どちらがよい？』

くじらぐもでは、4月から小学生になる児童との契約が多くなってきました。先日も、保育園に出向いて児童と面会し、母親から話を聞く機会がありました。その際に母親との会話であった「母子通園(子どもと一緒に)と母子分離(子どもだけを預かる)」。母子分離について、どこことなく家族が罪悪感を抱いている話も聞きます。母子通園をして母親がしっかりと関わらなければならないという意識が強い方もいました。未就学の幼い頃ほど親子の密接な関わりが今後の土台となる重要な時期ということなのでしょう。

わかっているけれど、母子分離のタイミングで一步踏み出せなかった母親からは、事業所の支援員との出会い、話を聞き環境に恵まれていることが理解でき、お願いすることができた話を聞くことができました。

くじらぐもから、声を大にして言いたいことは母子通園でも母子分離でも、その場所は子どもが伸び伸びと過ごせる環境かどうか？そのことは妥協せず事業所を選んでほしいと思います。伸び伸びと過ごせる環境だからこそ、本人の力が発揮できると考えるからです。

最後に、ある母親からの興味ある話を紹介します。「初めての子どもに障害があることがわかり、どうしていいのかわからなかった。そんなときに母子通園で知り合ったママ友とたくさん話をすることで私自身が“療育”を受け、今の私がある。」

## <1月のトピックス>

先日、担当しているご利用者の送迎を確認するため、事業所との待ち合わせ場所へ向かいました。その場所は、他ご利用者も待ち合わせ場所となっていることから、家族が待っていました。その日は、雪がちらつく非常に寒い日でした。家族も送迎車の到着時間が多少前後しても大丈夫のように早めに来ていました。

家族とは、世間話をしながら一緒に15分ほど待ちましたが、その15分は寒くて長く感じました。家族は毎日このようにご利用者の帰りを待ち、迎え入れていることを知りました。

「家族なのだから当たり前？」確かに、ご利用者は家族の介護が必要です。毎日のことで慣れてしまいがちですが、どんな形でもいいので「感謝の気持ち」を時々伝えてほしいと思います。

ご利用者にはご利用者の人生が、家族には家族の人生があるなかでの毎日です。そこで「感謝の気持ち」が伝えられるようになることは、きっとお互いにウィンウィンの関係性に繋がります。そんな場面を築くお手伝いも、くじらぐもは喜んで承ります。